

ヒラタアオコガネの分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 3)

高 橋 寿 郎

ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister, 1844 は日本特産種でありその分布は本州の中部以南に分布している種といわれていたが最近千葉県下あたりにも分布を拡げているのではないかと報ぜられたりしている。ゴルフ場の少い頃には出現期の関係から近畿地方あたりではあまり記録が無かったように思われるが最近の様にゴルフ場が多く建設されてくると芝草の害虫としてこのコガネムシの発生が多くなってきたり時には大発生といった現象にしばしば出会ったりしだし次第に注目されるコガネムシの一種になって来たように思われる。そこでこのコガネムシの分布は現在どのような状況なのか身近にある文献によって眺めて見ることにした。勿論地方誌を克明に拾ったわけではないので大体の所しかわからないが傾向と云ったものはわかるのではとまとめてみた。

始めにこのコガネムシがどの様に吾々の眼の前に紹介されてきたかを眺めて見る。

ヒラタアオコガネの原記載は Burmeister (以下敬称略) により Handbuch der Entomologie, Band. IV, Berlin, p, 243, 1844にあることになっている。そこを見ると 15. A. 8-costata として簡単に2行程の記載であり日本が産地となっている。即ち *Anomala* 属で記載されている種である。

次いで Motshulsky, V. de が1860年 Etud. Ent. IX に "Insectes du Japan" なる論文を発表その P.14に *Phyllopertha octocostata* Burm. と学名だけを書いて何の解説もついていないが之が日本からの2番目の記録となる。Motschulsky の論文の材料は日本の北の方でのものが多く中央部から南の材料は少なかつたように思われる。従って この記録の材料の産地がわかればなァと考える(単なる Burmeister の引用かも知れない)。

1875年に C. O. Waterhous は "On the Lamellicorn Coleoptera of Japan" を発表その P.108に "*Phyllopertha octocostata* Burm., A common species it appears with the first warm days of spring" とある。この論文は G. Lewis の主として南部日本で採集した標本に基いて記録しているのであって具体的な産地は書いてないが西日本一帯に普通に見られたのかもしれない。

1879年の G. Lewis の "Catalogue of Coleoptera from Japanese Archipelago (London)" には単に名前だけである。P.14. 978. *Phylloper octocostata* Burm.

1887年の Schoenfeldt, H. V. の “Catalog der Coleopteren von Japan” にも *Phyllopertha octocostata* として産地は Japan だけである。

同じく1887年に Heyden, L., が “Verzeichniss der von Herrn Otto Herz auf derchinesischen Halbinsel Korea gesahhelton Coleopter” と発表された論文中に朝鮮から *Anomala octocostata* Burm. を記録している。この記録がその後本種が朝鮮にも分布しているとして長い間扱われる基になった。

1903年の Edm. Reitter が “Bestimmungus-Tabelle der Melolonthidae” の中で *Anomala(Chrysoplethisa) octocostata* として Japan, Korea を分布地に記載らしきものが始めて発表になった。

1913年の G. J. Arrow の “Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Descriptions of a few new Species” には *Anomala 8-costata* Burm. と名前だけを収録している。

1917年新島善直・楠 菊夫・富本 豊によって “コガネムシの被害及び駆除に関する報告(第1)” が発表になりこの中で(P.9)この種の名前が記録されている。この記録が日本人の手によるこの種の初めての紹介になると考えられる。

1918年の F. Ohaus の W. Junk Coleop. Cat. Pars. 66 には *Anomala octiescostata* と分布は Japan とのみになっている(P.75)。

1923年新島善直・木下榮次郎両博士による “こがねむしに関する研究報告(第2)” なる論文が発表になった。今迄の文献(原記載をも含んで)の中で本種の記載らしきものがほとんど見られなかったのは不思議であったがこの論文で記載らしきものが始めて発表されると共にカラーによる図もつけられている。産地は Korea, Japan, 高知, 福岡, 山口, 鹿児島, 朝鮮とあるが朝鮮の記録は Reitter の文献を採用されたのではないかと考えられる。学名は *Anomala octiescostatic* となっている。

1924年岡本半次郎博士は “The Insect Fauna of Quelpart Island” を発表になりその中で(P.175), *Anomala octocostata* を Heyden が朝鮮から Herz が採集したと記録している。朝鮮では大変珍しく1頭を得た併し日本では(北海道以外)発見できるとある。

尚 *A. sieversi* は朝鮮に普通で対馬にも産すと云う記録がある。

1930年代からいわゆる戦前での各種の図鑑にも本種が紹介された。その代表的なものを次に記録しておく。

1932. 新島善直. 日本昆虫図鑑, P.494, f. 961 (北隆館・東京)

1933. 神谷一男・安立綱光. 原色甲虫図鑑, pl. 53, f.6. (三省堂・東京)

カラー写真はあまり良い出来ではない。分布は “本州, 四国, 九州, 朝鮮に産す” とある。

1933. 加藤正世. 分類原色 日本昆虫図鑑第八巻. pl. 28, f. 5 (厚生閣・東京)

上翅上の隆条が赤くカラーで表現されているのは少々オーバーである。分布は前期図譜と同

じ。

1940. 平山修次郎. 原色甲虫図譜, pl. 25, f. 10, p. 63 (三省堂・東京)

分布は上記と同じである。図示されたのは鹿児島県城山産。カラー写真が小さいので良くわからない図である。

次に戦前の代表的目録では次のものに夫々収録されている。

1935. 加藤正世. 主要金亀子科の分類(2). 昆虫界 3(15):159. *Anomala octiescostata*, 本州, 四国, 九州, 朝鮮.

1935. 三輪勇四郎・中條道夫. 日本産鞘翅目分類目録. pars. 5. 金亀子虫科. p. 38. *Anomala octiescostata*, 日本(本州, 四国, 九州), 済洲島, 朝鮮とある。

1941年沢田玄正博士は“A Revision of the Ruteline Beetles of the Genus *Phyllopertha* in the Japanese Empire”なる論文を発表, 本種を *Phyllopertha* 属の種として扱われると共に始めて♂交尾器の図も示された(全形図も入っている)。産地として従来の文献で示されたもの以外に鳥取, 呉, 福岡, 佐賀県唐津にも産することを示された。

戦後になって一番始めに本種が記載文をつけて紹介されたのが1949年の Medvedev, S. N. の Fauna U. S. S. R., Vol. X, No. 3 (No. 47)である。その P. 130-131, Fig. 20 に *Anomala (Chrysaplethisa) octiescostata* として図も入っている。分布は日本, 朝鮮となっている。

1950年には新島善直, 日本昆虫図鑑, 改訂版, P. 1318, f. 3806 (北隆館・東京)に図示された。勿論カラーでないからでもあるが記載がついている。分布は日本(本州, 四国, 九州), 朝鮮となっている。

本書以後現在に致る迄の目録並びに図鑑類にどのように紹介されているかを見ると。

1960年野村 鎮は“日本産コガネムシ目録”(桐朋学報 10: 69)を発表になりそこで本種の分布を本州, 四国, 九州, 屋久島, 沖縄, 済洲島? 朝鮮(ex., Heyden)とされた(屋久島, 沖縄の分布は始めてであると考えられる)。1965年, 野村 鎮, 原色昆虫大図鑑, 第2巻(甲虫篇)(北隆館・東京). pl. 66, f. 7, P. 131 において分布を本州(西部), 四国, 九州, 屋久島, 沖縄とされ済洲島, 朝鮮を省かれた。これ以後この2地方の分布は省かれるようになった(こちらに分布するのは *A. sieversi* Heyden である)。それからの図鑑, 目録類としては次のようである。

1975. 林 長閑. 学研 中高生図鑑 昆虫Ⅱ 甲虫. p. 74, 364 (学研・東京). 分布. 本州(西部), 四国, 九州, 屋久島, 沖縄とあり1965年の大図鑑と同じである。

1984. 黒沢良彦・渡辺泰明. 野外ハンドブック. 12・甲虫. p. 74, 186 (山と溪谷社・東京).

カラーで図説されており学名は入っていない, 分布は本州~屋久島, 沖縄とある。ただ本書にはツツジの花を食害中の本種のカラーによる貴重な写真が収められている(場所は明示なし)。

さらに千葉県のゴルフ場の芝生に発生したことも記録されている。

1985. 小林裕和, 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ). pl. 72, f. 24, p.402 (保育社・大阪)

ここでの分布は本州, 四国, 九州, 屋久島となっており沖縄は抜けている。

1988. 石田正明・藤岡昌介, 日本産コガネムシ主科目録. LAMELLICORNIA 1st. ed. Supplement, P. 49.

一番新しい文献になるが分布は本州(中部以南), 四国, 九州, 平戸島, 壱岐, 甕島, 種子島, 屋久島, 沖縄と広い範囲での分布状況であると云うことがわかる。

それではこの虫の分布の東限と思われるあたりからその分布状況を眺めて見る。

本州の一番東の産地として千葉県があげられる。既に黒沢良彦・渡辺泰明による“野外ハンドブック, 12(1984)”で言及されているが千葉県での記録は次のように文献としてある。

1983. 木村欣二, ヒラタアオコガネ千葉県の記録. 甲虫ニュース(61):6. 千葉県印旛郡白井町。

1986. 山崎秀雄, 千葉県におけるヒラタアオコガネの再記録. 月刊むし(187):38-39. 市川市大町, 東菅野。

千葉県にはゴルフ場が多いのであるからこの地域に分布することは別に珍しい現象でもないと考えられる。

関東地方での本種の記録は他に無いようであり1981年神奈川県教育委員会の“神奈川県昆虫調査報告書”には全く出てこない。

静岡県では1989年比良嘉晃“静岡県産コガネムシ科仮目録”(静岡の甲虫, Vol. 7, No.1/2:30)に No.114 として記録がありデータその他何もついていない(筆者の前の報文〔1986〕では静岡県下での芝草害虫の研究論文〔1979〕などにこの種が出ていないと報告, 静岡県に本種がいるかどうかとしておいたが詳しくはわからないが分布していることは上記の文献でたしかのようである)。

愛知県からの記録は

1990. 松野更一・伴 憲隆・穂積俊文“愛知県のコガネムシ類”(愛知県の昆虫・上:356). 東三河. 豊川市財賀が唯一の記録とある。ところが福井県では割合と記録が多い。

1985. 佐々治寛之・斉藤昌弘, 福井県昆虫目録:21. 福井市, 勝山市, 大野市, 今庄市, 敦賀市, 名田庄村, 高浜町。

さて近畿地方であるが近畿地方で記録のあるのは大阪府と兵庫県位ではないかと思われる。京都府の記録と云うのが見られなかった。1985年の“京都府南部の甲虫”にも全く出てこない。最近高橋敬氏から送られてきた“奈良公園の甲虫”(1991)の中にも本種は全く出てこない。

大阪の場合, 中田隆昭によると(大阪府のコガネムシたち, 1990), 僅かに池田市東山の記録があるだけで(之等はノイバラ花上とかギシギシの葉食害を採集とあり)芝草のある所に産すると考えら

れていながらゴルフ場あたりを調査されていないようで兵庫県の例からしてもっと産する地点は多くあるように思うのだが。

兵庫県下の産地は前にまとめたが最近宝塚市切畑の記録も出ている。伊藤, (1992), その後県下のゴルフ場では産するようであり2ヶ所で大発生というのに出会っている。したがってゴルフ場を探せば恐らく何処にでもいるのかもしれない(調査時期の問題はある)(最近加古川市でも見つかった。瀬戸内に面した地域には広く分布するのかもしれない)。

今迄兵庫県下で採集されているゴルフ場は次の通りである。

宝塚市長尾山・宝塚高原ゴルフ場。西宮市武田尾・説売ゴルフ場。神戸市六甲山上・神戸ゴルフクラブ。三木市広野・広野ゴルフ場。

尚中田隆昭は六甲山系東おたふく山山頂付近に多産を報告している(東おたふく山であるから芦屋市の境地点である)。

岡山県では岡山県昆虫生息調査団“岡山県の昆虫, 1978”の中で県中央部, 北部に分布とある。

広島県からは中村慎吾“広島県産コガネムシ・クワガタムシ類”(比和科学博物館研究報告第10号: 9, 1966)の中で比和町吾妻山, 高野町森市の産地名が揚げられている。

山口県では三好和雄“山口県の昆虫”P.145(1988)の中で“6~8月平野部及び山間部にて普通”と記録されて(若干出現期が遅いようである)。

四国では三宅義一ほかによる“徳島県のこがねむし類”(昆虫科学 7:26, 1958)に海部郡牟岐町の記録が1例あるのみであったが1961年の矢野俊郎による“四国産既知甲虫目録 Ⅲ”(松山昆虫同好会時報16:14)では徳島県名頃, 弁岐町, 高知県高知, 真如寺山, 足摺岬, 西豊永, 愛媛県松山市西山の産地が記録されている。また坂口精一の“香川県産昆虫標本目録兼香川県産甲虫目録”(1989)には残念ながら本種は出てこない。

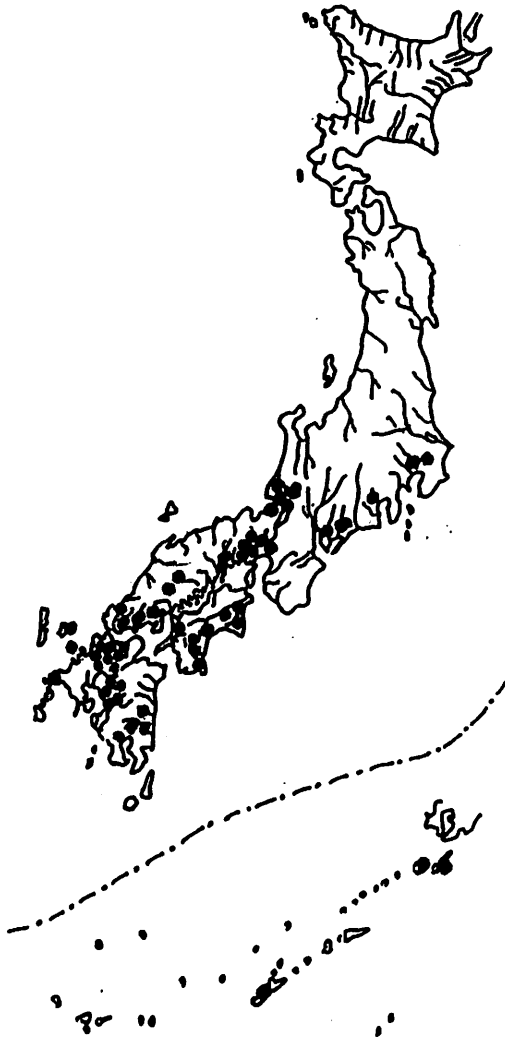
九州ではまづ高倉康男“福岡県の甲虫相”P.25(1989)(自刊)に英彦山地, 古処山, 田川市, 川崎町, 筑穂町, 平地~山地, 北部福智山, 足立山, 宮田町城山, 大牟田市とかなり普通に産する状況である。

宮崎県は清水 薫, 1969, “霧島山の昆虫”(霧島山総合調査報告書, P.263)に東大池・飯盛山の記録がある。

佐賀県東松浦郡鎮西町にある馬渡島から角田浩之ほか, “馬渡島の甲虫”(VITA Vol. 25:22, 1984)に7exs. 4, 5月採集の記録がある。

長崎県の壱岐からは浦川虎郷ほか, “壱岐の甲虫類”(壱岐の生物, P.36. 1977)に岳ノ辻, 天ヶ原, 谷江と記録が出ている。

熊本県からは大塚 勲“熊本県産コガネムシ類目録(3)”(北九州の昆虫, Vol. 9, No.1:11,



ヒラタアオコガネ分布概念図

出現期がかなり早いもので（4 - 5月）一般の眼につく機会が意外と少ないのではないかとと思われるが兵庫県の例を見てもわかるようにその出現期にゴルフ場を調べたら多数いるコガネムシなのだと思われる。そして芝草を害するコガネムシとして一部識者には衆知のコガネムシではないかと考えている。

最後に本種に似ている *Anomala sieversi* Heyden（朝鮮半島とか中国には普通にいる種）が対馬に産するといった記録が従来あったが一番新しい石田正明・藤岡昌介の“日本産コガネムシ主科目録”には出ていない。対馬に分布するのかどうか良くわからない。また本種の生態というか生活史というようなものはほとんど見られなかった。御存知の方があれば御教示頂きたい。ただ後閑暢夫博士によ

1962) に春から夏にかけて各地に多いとされ産地を熊本市, 阿蘇郡, 下益城郡, 人吉市, 球磨郡と記録されている。

鹿児島県は古く平山修次郎による城山産の記録があるが(1940)屋久島からは中根猛彦“屋久島に産する甲虫類について”（屋久島原生自然環境保全地域調査報告書, P. 608, 1984）の中に記録がある。

沖縄県からは東 清二・金城政勝“沖縄県産昆虫目録, 214, 1987”に本種の分布として“Okinawa Is., Yakushima, Tanegashima, Kyusyu-Honshu”となっている。

以上手許にある文献でこの種の分布を眺めて見たが福井県の記録が多いのは別として近畿から東では意外と記録があまり見られず東限は千葉県とは考えられるがその中間地帯でも記録があまり見られない。兵庫県から西へは割合分布しているようで特に山口県では多いとある。

四国も特に多いと云うような記録は見られなかった。

九州は全域に分布しているようで特に福岡県, 熊本県では多くいる印象を受けた。ただこの虫の

りその生活史、卵、幼虫の形態について述べられた貴重な報文がある(1980)。

参考文献

文中論文表題のみ示したものの発表誌名を記しておく。

G. J. Arrow, 1913. Ann. Mag. Nat. Hist. 8, xii, p.396.

後閑暢夫, 1980. ヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister について。

日本応用動物昆虫学会誌 24(2):112-112.

新島善直・木下栄次郎, 1923. 北海道帝国大学農学部演習林研究報告 Vol. 2. No.2

新島善直・楠 菊夫・富本 豊, 1917. 東北大農科大演習林研究報告第 5号.

岡本半次郎, 1924. Bull. Agr. Exp. St. Chosen Vol. 1, No.2.

Reitter, Edm. 1903. Verh. Naturforsch Ver. Brünn, 41, PP.28-158.

Sawada, H., 1941. Nippon no Kochu, Vol. 4, No.1:42-58, pl. II-V.

Schoenfeldt, H. v., 1887. Jahrb. d. nass. Ver. Naturhunde 40:31-204.

C. O. Waterhouse, 1875. Trans. ent. Soc. London, Part. 1:71-116, pl. III.

兵庫県下でのキンイロネクイハムシの分布

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 6 4)

高 橋 寿 郎

キンイロネクイハムシ *Donacia japonica* Chūjō et Goecke は京都の深泥池 (Midoro-ga-ike) で岸井 尚, 中根猛彦両博士によって採集された標本に基づいて中條道夫博士と Goecke 氏との共著によって記載をされた美しいネクイハムシである (1956)。原記載の終りの所で素木得一博士が京都で採集された標本に基づいてヨーロッパ, シベリアに分布して日本からは初めての記録種であるとされた *Donacia aquatic* Linné は本種のことであるとされている (1934)。さらに後藤光男氏が図説された *Donacia* sp. もこの種であると記しておられる (1955)。